

第3回 武蔵野市第五期基本構想・長期計画策定委員会 議事要録

■日 時 平成22年10月27日(木)午後7時02分～午後9時35分

■場 所 市役所601会議室

■出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、前川智之委員、松本すみ子委員、
会田恒司委員、井上良一委員、
事務局(企画政策室長、企画調整課長、財務部長、財政課長、市民協働担当部長他)

■傍聴者 5名

1. 開 会

2. 議 事

(1) 運営事項

委員長は山本委員が務めることを委員全員で確認し、副委員長は見城委員に決定した。

(2) 関連資料説明等

・「平成22年度武蔵野市民意識調査【速報版】」の説明

委員長：25ページ「全体として、いまの武蔵野市政は、うまくいっている」は先回と違うか。

事務局：26ページに経年変化が載っている。前回46.7%から若干ふえて50.7%になった。

委員長：重要度と満足度は、4象限であらわしたほうがいい。

「市の将来像」で「治安の良い安全なまち」が1位になったのは、武蔵野市の治安が悪くなったというよりは、治安に対する関心が強くなったということだ。

・「武蔵野市の将来人口推計」の説明

・「個別計画一覧」の説明

・「各種委員会懇談会答申報告書集」「各種プロジェクトチーム報告書集」の紹介

今後、重要な計画についても、必要に応じて随時説明する。

また、ホームページからPDFで参照することができる。

委員長：平成19年から21年までの市民委員会の懇談会とは、市民委員会か。市民委員会以外の委員会もあるのか。

事務局：市民委員会である。庁内はプロジェクトチームである。

委員長：平成19年から21年までの3年余で50～60の市民委員会懇談会の報告書があるということか。

事務局：武蔵野市生活安全計画のような年次計画や、過去に生きていた計画も含めると60くらいになる。

委員長：これは市民参加の成果だ。ここまで広範、かつ、このボリュームでまとめている自治体はあるのか。

事務局：先進自治体といわれているところは同様な取り組みをしていると思うが、ここまでまとめて整理しているところはないと思う。

委員：個別計画一覧に、法の義務づけの有無、計画の予定期間を入れてほしい。

事務局：それぞれの計画が、法定か任意か、市民参加の状況も含めて一覧できる資料をつくりたい。

(3) 財政状況

・「武蔵野市の財政状況」の説明

委員長：吉祥寺南口駅前交通広場の整備は、都市計画事業か。

委員：平成12年に実施している。都市計画決定だが事業認可は、測量が終わっていない。道路の網をかぶせ、買収を進めている。

委員長：公会堂の建てかえも関係があるのか。

委員：公会堂建てかえは、公共施設の廃止等の中でやっている。南口の整備は都市計画事業としてやっている。

(4) 第四期長期計画・調整計画実施状況

・「武蔵野市第四期長期計画・調整計画実施状況報告書」の1～33ページを説明

委員長：体系図になった基本政策、施策約 300 項目の状況をいきなり聞かされても、わからない。

事務局：長計では簡単に書かれているので、実際にどう動いているのかをご確認いただきたい。討議要綱で第四期長期計画・調整計画がどう実施されたかを振り返るときに、何ができたかできないかを事務局で要約して、またご説明させていただく。

委員長：こういうものも必要だが、事務局の判断で、事業を色分けなどしながら紹介してもらいたい。

事務局：部長ヒアリングで出てくる現状課題ともリンクするので、事務局でもう少し簡単な資料を提出させていただきたい。

(5) 公募市民会議報告

- ・公募市民会議の位置づけと、「武蔵野市の将来を考える市民会議報告書」を説明

委員長：先回の基本計画・調整計画では、市民会議で幅広い意見を吸い上げた。今回は仕組みが違うので試行錯誤している。この項目分けは、市のほうで整理したのか。

事務局：市民委員皆様の意見を分けて、ご提案し、それをまたやりとりさせていただいた。

委員長：かなり新しい発想や、今まで市の会議では上がってこなかったようなタイプの意見もあって、本音の部分も多々ある。貴重なご意見として承りたい。これを事業の体系に落とすところまでは考えなくていいとしても、アイデアや考え方は、長計や基本構想の中に生かしていくと理解していいのではないかと。委員は各自持ち帰り、読んできてもらいたい。

(6) 討議要綱概要

- ・「武蔵野市第四期長期計画（平成 17 年度～26 年度）討議要綱」、「第五期基本構想・長期計画 討議要綱のイメージについて」をもとに説明
- ・先回の討議要綱は市報特集号で 4 面に掲載し、市民のご意見をいただいたことを説明

委員長：討議要綱（案）は 12 月につくるのか。

事務局：そのとおりである。2 月 1 日の市報での公表を考えている。

委員長：第四期のものは、前半に大きな考え方がかなり書いてあって、分野別検討課題は 46 ページからだ。施策をかなり踏み込んで書いている。先ほど事務局がいったのは、個別に事業名、事業内容を挙げて、頭出しのようなことをどこまでするかということか。

事務局：そのとおりである。

事務局：できるだけ市報4ページにおさめたい。体系図も文章化する。柱立てよりも、策定委員会が考える論点、課題を整理して投げかける形の討議要綱のほうがいいのではないか。事務局としては、計画素案にはしないで、身近に読んでいただけることを目指したい。

委員長：ピンクの表紙の資料（武蔵野市第四期長期計画（平成17年度～26年度）討議要綱）は、計画素案の部分もあり、市政とは何かといった話もある。

事務局：以前は、討議要綱をつくる前に、各分野で事業計画案を出し、今後考えられる事業や方向性を分野別検討課題という形で具体的に書いた。今回は、個別の分野に入る前に、それぞれの分野でどんな課題があり、市民と議論すべき論点はどこなのかを出す。討議要綱は、あくまでも議論を生むための道具である。何が必要なのかの論点に基づいて次の計画案を出すほうが、市民にとってもわかりやすいのではないかと事務局は考えている。

委員長：部長ヒアリングは、分野別の検討課題、政策、体系を聞き、それぞれ必要な事業をピックアップしたものが検討課題という形でつくられた。だから、やけに具体的だったり、急に抽象的になったりしている。

事務局：各部が抱えている課題、あるいは将来に向かってどういう方向で進んでいくかという大きな枠組みでヒアリングをしていただきたい。細かい事業から入ると、将来の話を聞く前に、説明が長くなる。将来、事業をどう展開していくのかという大枠の話をヒアリングしていただき、必要があれば細かいところを事務局でご用意させていただく形にしたい。

委員長：議員から「今回の討議要綱は具体性がない」とお叱りを受けないか。実績と評価は、比較的事務的につくれるが、○×△ではなくて、もっと質的な評価が必要だ。

事務局：できた、できないの個別の評価は事務局で出せる。策定委員会では、総合評価欄で考え方についての評価をいただきたい。

事務局：もう少し事業を束ねた形で、どう動き、どういう反省点があるかという形のものを次回までに用意する。

委員長：ピンクの冊子の27ページの総合評価では、「中国・インドという人口超大国の台頭」と、一地方公共団体には気宇壮大なことが書いてある。

事務局：バブル崩壊を受けた記述である。

委員長：このあたりに市民会議の皆さんの考え方、基調のようなものを反映させていったらいいのではないか。

委員：市民会議の報告書1ページで、「本来すべき議論であったにも関わらず、ほとんど語られなか

った分野、項目があります」とわざわざ書いているのは、何か意味があるのか。

事務局：ほかの分野でも意見があったが、時間的制約もあって言及できなかったという意味である。

委員：議論を尽くせなかった項目を書かないと、漏れてもいいものだから無視したと読まれてしまう。

「本来議論すべきであったにも関わらず、ほとんど語られなかった分野、項目」とは何か。

事務局：この会議はもう解散しているので、事務局の後推量の域を出ない。

委員：項目として市から提示してあったにもかかわらず議論しなかったということか。

事務局：市からの提示は一切していない。10人の市民委員がそれぞれ自分で議論したいと思った項目という意味である。

事務局：約300事業ある中で、議論になったのは7項目が中心だったので、大量の積み残しが出た。議論を尽くせなかった内容は、市民委員10人ごとに違う。

委員：市民委員10人全員でレビューしてコメントをつけた。

委員長：市民会議は、第2回以降、テーマを立ててフリーな議論をしたために、全く話題にならなかった 이슈があったということである。

議論の視点ごとにまとめないで、施策の事業の形に組みかえて冊子にしたということか。

事務局：そのとおりである。

副委員長：「はじめに」を書いたのは、だれか。

事務局：事務局でたたき台をつくり、委員とのやりとりを重ね、推敲していただいた。

副委員長：書いた主体は。

事務局：委員である。

委員長：会議のアジェンダの設定、開催回数、委員の人数、分科会形式の検討など、いろいろ改良していくべきものではないか。

委員：実施状況報告書は、○×ではなく、反省点や、将来に対する問題点のレポートまたはレビューが欲しい。

事務局：あくまでも実施状況であるので、委員のいう観点は入っていない。

委員：市民の意見などをキーワードとして抽出しないと、どういう方向に持っていくか考えられないのではないか。

委員長：市の職員は、日々の事業について議員など関係者からいろいろな意見を集約している。そこからアイデアが出てくるといい。

委員：未着手事業には、お金がなかった、世の中の空気が変わったなど、いろいろな理由がある。それを色分けして示してほしい。

事務局：制度が変わって未着手の事業もある。

委員：ホームページのドメイン解析で、どのページに一番アクセスしたかが分析できるのではないか。

事務局：だれがアクセスしたかはわからないが、いただいた意見は集約している。各ページでアンケートもとっている。

委員：どこが最もよく閲覧されているか。

委員：長計には、人事概要も入るのか。

事務局：アクセスが最も多いのは職員採用試験である。

委員長：イベント情報ではないのか。

事務局：どの会社もそうだと思うが、採用に関するページのアクセスが、学生を中心に多い。

委員：4ページの「(6) 弱者にやさしいまち」がひっかかる。「弱者」という言葉は余り使わない。どうしても使うときは、次回以降「社会的弱者」としたほうがいい。

委員長：市に文責はない。

事務局：議論の中では「社会的弱者」という意味で使われた。ここでは、意見として出てきたものが例示されているにすぎない。

3. その他

(1) スケジュール確認

(仮称) 作業部会：平成 22 年 11 月 2 日 (午後 7 時～) 部長ヒアリング

同：11 月 9 日 (午後 7 時～) 同

同：11 月 15 日 (午後 7 時～) 同

第 4 回策定委員会：11 月 16 日 (午後 7 時～) 論点整理

第 5 回策定委員会：12 月 6 日 (午後 7 時～) 論点整理 討議要綱 (案) について

第 6 回策定委員会：平成 23 年 1 月 31 日 討議要綱 (案) について市議会議員と意見交換

委員長：討議要綱を今年度中にまとめるとすると、作業部会の日程も早目に押さえる必要がある。討議

要綱（案）は第5回で決定するのか。

委員：作業部会でもんでから策定委員会ではないのか。部長ヒアリングを経て、分野別の論点を整理し、既存の分野でいいのかも含めて第5回で論点整理をするのではないか。11月16日の後に策定委員会の作業部会があってもいいのではないか。

委員長：12月末にもう一回策定委員会が必要ではないか。

事務局：年明けでも大丈夫だが、2月1日の市報で公表するためには、1月10日がリミットである。12月中に設定させていただきたい。

委員：議員との意見交換の翌日に市報で公表する。意見交換を反映したものでなくていいのか。

事務局：構わない。

委員：議員から、こんなものを公表するなということにはならないか。

委員長：「もう印刷に出した」といえばいい。

————— 了 —————